



相澤 久美子さん
あいざわ・くみこ

1955年宮城県塩釜市本町に生まれる。小学6年生から東二番丁小学校、五橋中学校、宮城一女高に進む。1978年、東北大学農学部食糧科学科卒業。糖類の分析方法を研究する。その後、「分析機械に携わりたい」と、東北大学工学部応用化学科助手として勤務。

●1979年、3歳年上の相澤博彦氏(現社長)と結婚。長女奈帆子さん(眼科医師)、長男統彦さん(京都で小売業に従事)、次女枝里子さん(既婚)の3人の子どもに恵まれる。

●結婚と同時に同社取締役として社業に携わる。現在は同社常務として、販促広告、人事採用担当。

●趣味は、自宅の庭でバラを育てることと、オペラ・アリアを聴くこと。

は、いつも敬服しています。一番町の本店改築が完成したときには、店の前で思わず拍手をしてしまいました。

相澤 一番町本店の改築改築は先代の会長、相澤博の夢でした。建物の引き渡しの最中に東日本大震災が発生しまして、もし営業中だったら大変なことになっていたと今になって思います。

メガネ業界では低価格商品が出て、資格がなくても商売ができるといふ大変な時代になりました。その中でも、当社では職人の技術を大切にしていこうと、価格ではなく価値を分かっていただくよう社員教育に力を入れています。

お客様からすれば、ご自身の視力に関するデータがきちんと保管されていれば安心だと思えます。そのデータを基に、さらに最先端の技術や知識を駆使して、お客様にとつ

ともに同じ方向を見ながら、人生に向かっている

相澤 主人は仕事に熱心で

休みを取りません。一日仕事

場でも一緒ですが、自宅に

帰ってきたときは、二人で楽しい時間を過ごせるようにしています。

菅原 それは素晴らしいですね。例えばどのようなにされていますか。

相澤 小さなことで、面白くおかしく伝えたり、私が作る料理を自画自賛もします。夫婦二人で大声で笑いあうことがとても大切だと思います。

菅原 ご主人はどのような料理がお好みですか。

相澤 意外に、カレーライ

スとかハンバーグとかが大好きなのです。た。外での会合や会食が多いので、できるだけ野菜中心の料理を作るようにはしています。二人で3年に一回ペット健診を受け、健康維持には最善の注意をはらっています。

菅原 当社は、生命(いのち)の物語に



第16回

清月記 SPECIAL対談 相澤 久美子さんが語る「女性の生き方」

創業119年(明治28年設立)の仙台の老舗、(株)メガネの相澤の常務取締役として、夫婦ともに経営に携わる相澤さん。「価格ではなく価値を分かっていたら、努力したい」と語る。

「夫婦で笑い合えることがとても大切です」

23歳で結婚。お互い商家育ちで、意気投合しました。

菅原 相澤さんのご実家は、塩釜市で広く玩具を営むタンヨさんとお聞きしました。私は5歳まで塩釜で育ちましたので、両親にねだってお店におもちゃなどを買いにいきました。クリスマスになると、いろいろなものが揃って、目を輝かせて並んだのを覚えています。

相澤 私は、父丹野伸二と母富士子の次女として塩釜に生まれました。幼いころから、店の手伝いをしました。タンヨは今、姉が継いでいます。菅原 大学では、難しい研究をしていたのです。

相澤 日常生活に役立つものをと思い、農学部に入り、糖類の分析方法を研究しました。指導教官の薦めもあって、分析機械に携わるために工学



「父相澤博、母和孩子から商売の心構えを教えてもらいました」(昭和58年ごろ)。上は自宅にて育てているバラ。

部の助手になりました。菅原 勤められた翌年、23歳で結婚されました。相澤 母の知人の紹介で結婚しました。

菅原 相澤家は仙台でも有名な家、重圧感は無かったですか。相澤 お互い商家の家で育ったこともありますが、二人ともすぐに意気投合しました。相澤の父母もよくしてくれました。私は、小さい時から近所のおじさんおばさんに、自然と入って



菅原 裕典
すがわら・ひろのり
1960年宮城県塩釜市生まれ。83年東北学院大学経済学部経済学科卒業。83年名古屋・中京葬儀社入社。85年3月、父・清一とともにすがわら葬儀社設立。89年仙台メモリアルサービス設立、社長就任。2000年エポックセんだい設立、社長就任。01年社会福祉法人無量壽会理事就任。01年せんだい泉工フム放送取締役。01年(株)清月記社長就任。10年宮城学院中学校・高等学校父母教師会会長就任。

いけたのです。それで「めんこちゃん」って呼ばれて、父の友人からも可愛がられました。菅原 5年間に3人のお子様を出産、子育てされました。相澤 子育てはあつという間でした。主人と当時の写真をよく見るのですが、子育ての時間は宝物だねって、二人でよく言っています。菅原 すぐに仕事をされたのですか。

相澤 結婚した2日後には、主人からメガネの研修会があると誘われ、東京でのファッショナドバイザー養成講座を受講したのがスタートでした。子育てが終わって、上の二人が大学生、下の子が高校生になったときに、相澤の両親から、「相澤家では、夫婦協力して仕事をやってきているので、そろそろ復帰しては」と言われたのが仕事に復帰するきっかけでした。主人は、専業主婦で家庭を守ることを望んでいたようですが。



清月記本社で

菅原 メガネの相澤さんの店づくりなどをずっと見ていますが、競争が激しいメガネ業界で、店の歴史を継続しながら、店をうまく切り替えて王道を行かれているのに

価格ではなく価値を分かっている努力

うに、故人の人生観や考え方がわかるような演出に力を入れています。

相澤 私も、メガネを通して、お客様に新しい物語を創っていただくように、社員ともども頑張っています。それには、責任者の顔や考えが見えることが大切なことだと思います。そして私は、主人を支えながら、主人が誰からも認めてもらい力を発揮できるような環境づくりをしていくことです。ともに同じ方向を見ながら、人生に向かっていると思っています。

東日本大震災追悼献花場

平成26年3月11日(火) 午前10時~午後4時

清月記では、東日本大震災で犠牲になった方へのご供養の場として、仙台市内・石巻市内全ての会館に献花場をご用意いたします。お花もご用意させていただきますので、多くの方に足をお運びいただければ幸いです。

「生命(いのち)の物語」応援会社

清月記

各会館へのアクセス等詳しい情報はホームページにてご覧いただけます。
<http://www.selgetsuki.co.jp/>
お問い合わせはフリーコールへ
☎0800-888-5777

00 仙台経済界 2014.3-4